

令和4年農業産出額（広島県）について

1 要旨

令和5年12月22日に農林水産省が公表した、令和4年農業産出額（都道府県別）における広島県の概要を報告する。

2 概要

(1) 調査期間

令和4年1月から令和4年12月までの1年間。

(2) 前年度との比較

ア 全体

広島県の令和4年農業産出額は、米、野菜、畜産の各分野において、産出額が増加するとともに、野菜及び畜産の産出額は、それぞれ過去最高となり、前年（1,213億円）と比較して76億円増加し、1,289億円（6.3%増）となった。

イ 分野別

(ア) 米

水稻の栽培面積の減少に加え、人口減少等に伴い米の消費量は減少したものの、外食産業など業務用米の需要が回復するとともに、在庫量が低い水準で推移したことから米価が上昇したため、前年（222億円）と比較して7億円増加し、229億円（3.2%増）となった。

(イ) 野菜

県内においては概ね順調な生育状況であったが、他県主要産地では、冬春トマトを中心とした果菜類は病虫害により、また、夏場のねぎ等は高温により、生産量が減少し、全国的に価格が平年を上回って推移したことから、前年（242億円）と比較して29億円増加し、271億円（12.0%増）となった。

(ウ) 果実

みかんは出荷量が減少したものの、レモン等の中晩柑類へ転換が進んだ。

また、なし及びりんごの生育が順調だったことに加え、ぶどうにおいては高価格で取引される優良品種への転換が進み、単価が上昇したことにより、前年（161億円）と比較して4億円増加し、165億円（2.5%増）となった。

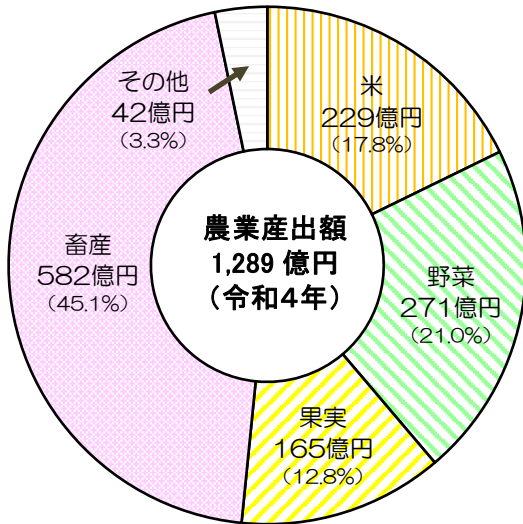
(エ) 畜産物

豚については、令和3年に引き続き令和4年も全国的な豚熱の発生等により出荷頭数が減少したものの、高騰する輸入品の代替需要や節約志向の高まりによる需要を背景に単価が上昇したことにより、前年（91億円）と比較して29億円増加し、120億円（31.9%増）となった。

また、肉用牛についても、国の増頭支援事業等により、生産頭数が増加した結果、前年（77億円）と比較して6億円増加し、83億円（7.8%増）となった。

なお、畜産物全体の産出額については、前年（545億円）と比較して37億円増加し、582億円（6.8%増）となった。

【農業産出額内訳】



【品目別産出額上位 10 品目】

順位	品目	産出額 (億円)	(参考) 令和3年
1位	鶏卵	284	280億円 (1位)
2位	米	229	222億円 (2位)
3位	豚	120	91億円 (3位)
4位	肉用牛	83	77億円 (4位)
5位	生乳	59	57億円 (5位)
6位	トマト	44	39億円 (7位)
7位	ねぎ	41	39億円 (8位)
8位	みかん	38	44億円 (6位)
9位	ぶどう	37	36億円 (9位)
10位	ほうれんそう	22	20億円 (10位)

※ 色付きの品目は、前年度から増額となっているもの

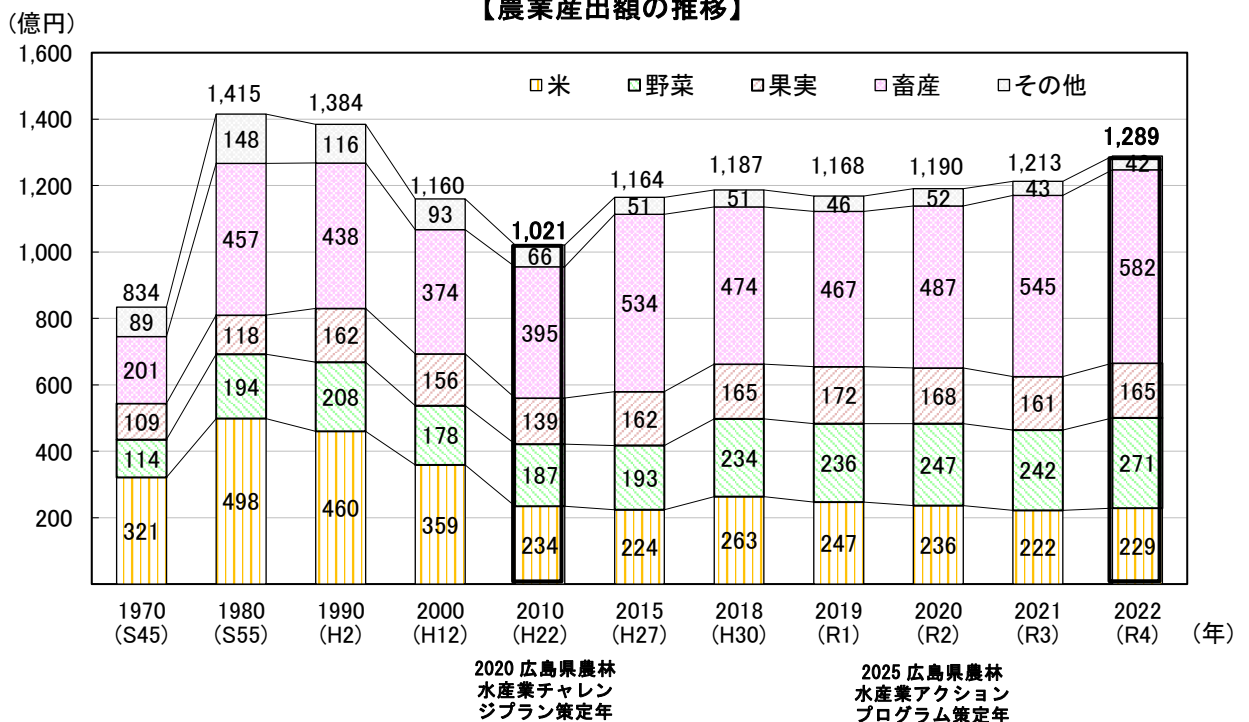
3 農業産出額の推移

平成 22 年（2010 年）に策定した「2020 広島県農林水産業チャレンジプラン」以降、経営体の所得拡大を図るため、水稻から野菜や果樹等の収益性の高い作物への転換や、大規模農業団地の整備等を行うとともに、経営発展意欲のある農業者への農地集積や経営力の向上を支援したことにより、野菜の産出額は、平成 22 年の 187 億円から 271 億円（対 2010 年比 44.9%増）、果実の産出額は、平成 22 年の 139 億円から 165 億円（対 2010 年比 18.7%増）となった。

また、畜産については、意欲ある畜産業者及び企業経営体の規模拡大や生産性向上のための施設整備等を支援したことにより、産出額は平成 22 年の 395 億円から 582 億円（対 2010 年比 47.3%増）となった。

その結果、農業産出額全体では、平成 22 年の 1,021 億円から、10 年後の令和 2 年（2020 年）にはチャレンジプランの目標値である 1,200 億円に対して 1,190 億円（対 2010 年比 16.6%増）となり、令和 4 年度は 1,289 億円（対 2010 年比 26.2%増）となった。

【農業産出額の推移】



《参考：全国における農業産出額の推移》

